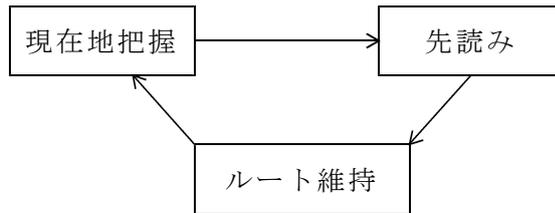


地図とコンパス

甲高 学

1 地図を読む目的について

- 山を立体的に把握し、その情報をもとに山中での行動を律することにある。
- 山と自分を3次元で把握する
- 先の行動を予測する
- 自立した登山者になる



- ・現在地が把握できれば、次にとるべき行動が考え得る。
 - ・先読みができれば、事故、道迷いを未然に防げる。(周到な準備が用意できる)
 - ・先読みでイメージしたルートと自分の置かれた状況が一致していれば安全登山を継続することができるのである。
- ※一致してなければ、①一致地点まで戻る
②修正しながら進む

また、何かのトラブルのときに ①→→ルートに戻るか
②→→そのまま行くか
③→→エスケイプルートへ逃げるか の判断ができる

2 山の構造を理解する。

(1) 山は尾根と沢からできている。

→登山道は、①尾根道、②沢道、③尾根と沢を結ぶ道、④トラバースの道

(2) 尾根は山頂から山裾に向かって分岐する。

尾根とは「ピークから沢に没するまでの盛り上がった一続きのライン」

※尾根はアップダウンがある。やがて沢で消失する。

(3) 沢は上流へ向かって分岐する。

一番奥までたどれる流れを「本流」、それ以外を「枝沢」、本流と枝沢がぶつかるところを「出会い」とよぶ。

※沢は上流から下流に向かった必ず標高を下げていく。

(4) ピークとコル、稜線

・ピーク→山頂(周囲より高いところ)

・コル →ピークとピークの間部分

・稜線 →ピークとコルが連続する尾根 (スカイラインをつくりやすい)

※地名から読み取るピークとコル

ピーク → ～丸 ～ノ頭 ～ノ峰 ～ドッケ ～嶺

コル → ～峠 ～タワ ～タル ～乗越

3 2. 5万図の世界

(1) 標高差10mごとの等高線(主曲線)、50mごとの太線(計曲線)

①ピーク等高線は丸く閉じる

②コルは等高線が向き合う

③尾根の等高線は外側に張り出す→尾根はピークから山裾へ等高線の張り出しが分岐する

④沢の等高線はピークへ食い込む→沢はピーク側に向けて等高線の食い込みが分岐する

(2) 1cmで2500m→4cmで1km

(3) 地形図記号→テキストP24

練習1 地図から尾、沢を根を見つける

4 計画段階での地図読み

(1) 思考の順序

- 1 登山口から山頂までの標高差は
- 2 急な部分、緩やかな部分はどこにあるか
- 3 登山道は尾根と沢をどのように利用しているか
- 4 登山道の意図を読む

(2) 概念図を作成する。→別紙

・ピーク → ▲

・コル → †

・尾根 → 茶色の網かけ

・沢 → 青線

・登山道 → 点線

以上の位置関係を大まかに記載し、そこに主要地点の標高を書き入れる。

練習2 駒ヶ岳登山口～会津駒ヶ岳～中門岳～大津岐峠～キリンテの概念図

(3) 地図を3次元に見る。絵にしてみましょう。

練習3 駒ヶ岳登山口～会津駒ヶ岳～中門岳の立体図



5 登山道の意図を読む

(1) スタート(登山口)は沢、または峠から まれにケーブルカー降り場
基本、山道は沢沿いにつくのが原則

(2) 尾根に行くのか、沢に行くのか

尾根から離れる理由→ 傾斜がきつい 無理にピークを越えない 岩場 その他

沢を離れる理由 → 最後の傾斜がきつい 高巻き 渡渉がある 岩場 その他

(3) 山の起伏と登山道の関係(分岐の位置等)

(4) 地形から危険箇所を予測する(道迷い、痩せ尾根、岩場)

(5) トータルで登山道の意図を理解する(山の全体像をイメージする)

6 登山計画の立案

(1) 登山ルートを選択

(2) 行動予定時間(登山開始時刻と山頂予定、下山口到着予定時刻)

(3) 行動計画の立案(日帰りか宿泊か)、昼食(行動食)はどこでとるのか

(4) 自宅から登山口までのルートと時間

(5) どのようなメンバー構成か

7 地図の正置（コンパスの活用）

- (1) 地図の北を磁北線に合わせて、地図を正置する。(2. 5万分の地図はもっぱらこれ)
コンパスの磁針と磁北線が平行であること。
- (2) 特徴物に合わせて、地図を正置する。(オリエンテーリング等)
コンパスの磁針と磁北線が平行であること。

※進行方向を上（この場合の上は地図上の上ではない）にして地図をもつことが重要。
※正置がしっかりできれば、目的地の方向はおのずとわかる。

8 山行中の地図読み

- (1) 尾根での地図読み
①小ピーク、コルの位置を読む
②傾斜の緩急を読む
③標高差を読む
- (2) 稜線での地図読み
→ + (プラス) ④尾根の派生(分岐)を読む
- (3) 沢での地図読み
①枝沢の合流地点を読む
②本流の曲がりを読む
③渡渉箇所を読む

※沢登りの地図（遡行図）は全く別もの

※地図の読むとは先読みすること! → 現在地把握 → ルート維持 道迷い防止となる。

※大きさ感、傾斜感、距離感、高低差感を身につける!(←実際に山行して身につける)

9 コンパスの使い方の実践

- (1) 練習4 地図の正置
- (2) 練習5 目的地の方向を知る
- (3) 練習6 山座同定
- (4) 練習7 現在地を見つける(登山道の途中で)
- (5) 練習8 現在地を見つける(2つの目標物から)